

MOHAWK
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

MOHAWK COLOR CONTROL PATCHES

Blue

Cyan

Green

Yellow

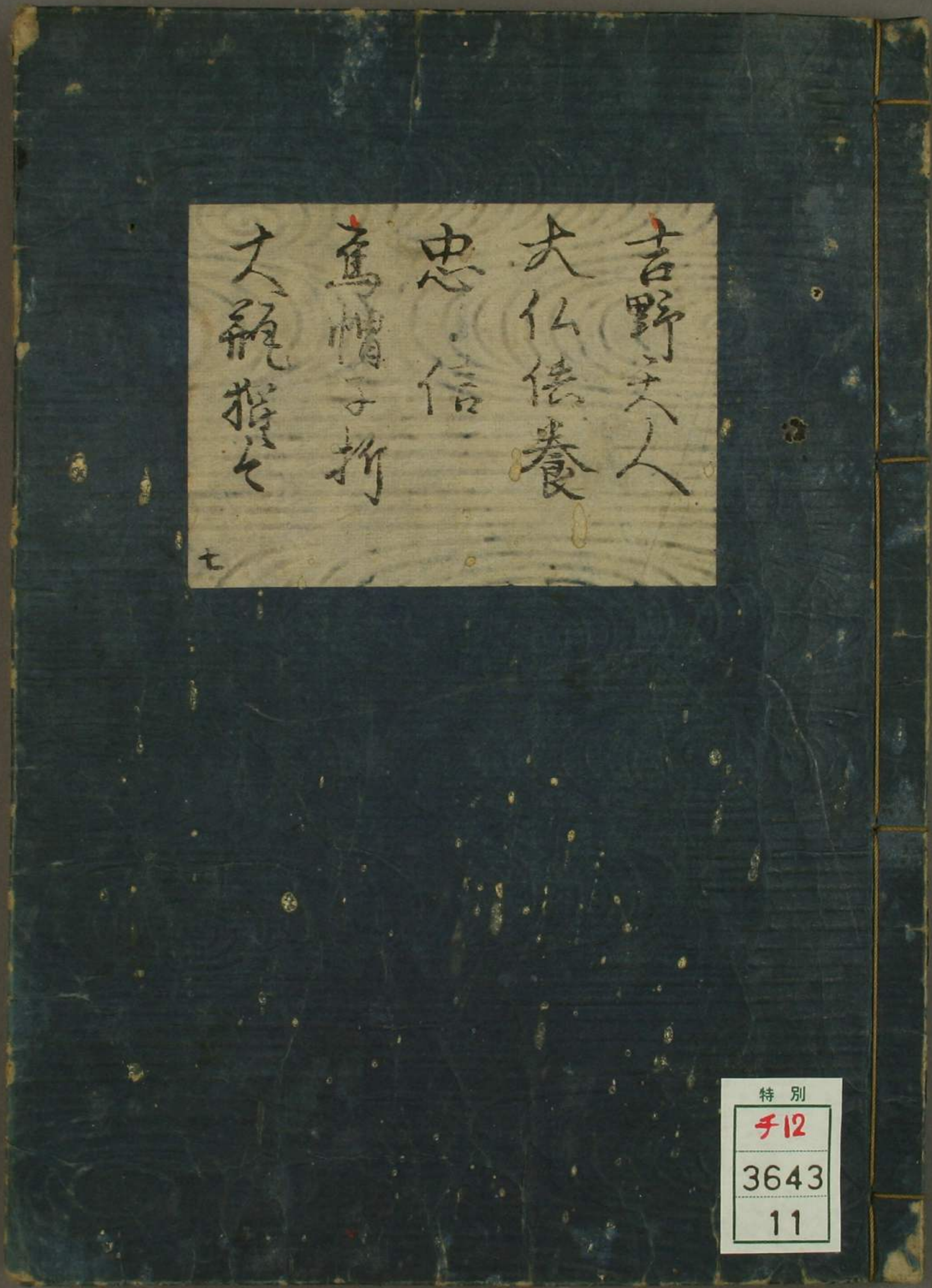
Red

Magenta

White

3/Color

Black



吉野夫人
大仏信養
忠信
鳥帽子折
大瓶指々

特別
412
3643
11





吉野天人

強^強 苑のそ路を志す人少て^下 吉野を



奥^奥 環^環 尋^尋 心^心

是ハ都方ニ住居ス

者あり。梅も我まふ成久の愛うしあ

苑と一入仕の平あも子むの操と年

ふ詠め仍^仍 洪子むの操ハみうし

終^終 多^多 一^一 苑と家^家 の向^向 若^若 き人^人 こそ

吉野天人



故 梅若誠太郎氏
昭和四年五月七日
梅若重氏
寄贈

伴のしげは和別よ下向仕候ツ洗ハ
殊ハ探ル花ハ気ハ心ハくハ色ハ香ハふハとハ深ハ
緑ハ糸ハよりハ中ハりハ中ハてハ青ハ柳ハのハ露ハをハ乱ハ
雲ハ雨ハのハちハりハ降ハきハるハ花ハのハ期ハ志ハ免ハ
アハしてハ氣ハ候ハふハ若ハ野ハのハ山ハよハ急ハよハきハ
りハくハ急ハくハ宿ハよハきハるハ山ハよハ急ハよハきハ
てハ山ハ中ハ候ハ久ハ閑ハもハ尾ハ上ハもハ花ハあハしハ候ハ

奥ハ深ハくハもハ入ハらハせハとハ思ハひハ候ハ
あハまハ成ハ人ハとハ行ハひハ新ハ作ハ候ハぞハ
是ハのハ部ハのハ者ハあハてハいハがハげハみハやハ野ハ乃ハ花ハ
とハ取ハ及ハ始ハくハ洗ハ出ハりハもハ今ハもハいハふハんハ戸ハ
まハいハやハとハあハまハ津ハ波ハあハまハがハけハしハ山ハ中ハ入ハ
しハせハらハまハきハらハ成ハ人ハあハてハ後ハくハぞハ
らハ花ハのハりハりハ小ハ伝ハ者ハあハるハがハ喜ハまハりハ

山ふ日公送つとああぐら花と女と
 くの山野うらさしひもあり也 ワキセル
 くに花の女人の他生の縁とらひあ
 り我もあなう一息 シテ あり山路荒
 早 上野 ともあれや 見もまぬ人やまぬ
 なづく志ねも志らぬも花乃陰り
 桐客 又 ありしてまろ人のづひ 入 ありあ

まそ花衣れ袖 カ かれて ト 木の ト 中よ
 立よりいぢや泳めん ヤラバ 入や花のり
 又 ト 海ら ト 中 ト さま ト 馬 ト の ト 義 ト 景 ト よ ト あり ト て
 花 ト 心 ト 引 ト 袖 ト ぐ ト 泳 ト め ト せ ト い ト ざ ト ぐ ト あ ト せ
 て ト あ ト ぐ ト め ト ん ト ワキ ト いろ ト ふ ト へ ト ち ト り ト の ト は ト 様
 又 ト 家 ト 路 ト を ト つ ト り ト と ト け ト せ ト け ト 泳 ト め ト る ト あり
 い ト よ ト く ト 不 ト 審 ト よ ト 社 ト 久 ト シテ 実 ト 御 ト 不 ト 審

吉野天入

の清なりけり今も行さうはくむをま誠
を我の主人なるはく花よをのまこく来
またりけり今もあまは候居して信心
さつきし給ふあふ其いふし一の五
節の舞小忌の衣表羽袖をまきし
月乃あ遊をかせせし志をくくこ
ふ侍おへと 夕夕入白ふ花の陰

づく月の夜好をまら給へび女表
姿あふくくかあふく霞よ来ん
と加陵頻伽の色をありやまみあり
さうきよまらく 不思議や虚
やふ音楽やの異音響して花娘
きり是は治行の御代とあや いひも
けし給へまのよま 琵琶琴和琴

吉野の八

志^チやう^ウむら^ウまき^キ志^チやう^ウ緞^{ケン}鼓^コや^ヤ糸^イ竹^{チク}
の^ノ舞^マも^モみ^ミら^ラふ^フお^オ喜^キ風^{フウ}の^ノ天^{テン}津^{ジン}乙^ニ女^メ
乃^ノ羽^ウ袖^{スエ}を^ヲみ^ミら^ラふ^フ花^ハは^ハな^ナだ^ダら^ラお^オま^マし^シま^マふ^フ
と^ト思^シや^ヤ ^{ナリニ}尚^{ナリニ} ^{ナリニ}乙^ニ女^メの^ノ身^ミな^ナ君^{キミ}の^ノ代^{ダイ}と^ト思^シく^クな^ナ
て^テ一^{イチ}岩^{イワ}の^ノつ^ツら^ラき^キぬ^ヌや^ヤ春^{ハル}の^ノ花^ハ若^ニ指^{ササ}
小^コ舞^マ遊^ユひ^ヒ花^ハの^ノち^チり^リ花^ハく^クる^ルを^ヲ入^イと^ト
う^ウあ^アき^キ君^{キミ}の^ノ恵^メを^ヲ治^チす^ス國^{クニ}の^ノ天^{テン}は^ハ内^{ナイ}

雲^{クモ}の^ノ通^{トウ}り^リ心^{ココロ}吹^フと^ト山^{ヤマ}の^ノ乙^ニ女^メの^ノ姿^{サテ}ら^ラま^マる^ル
ま^マは^ハ霞^{カサ}を^ヲた^タあ^アひ^ヒく^ク三^{サン}芳^{ホウ}野^ノの^ノお^オの^ノ
乃^ノ山^{ヤマ}桜^{オウソウ}う^ウの^ノふ^フと^ト名^ナ入^イか^カら^ラな^ナる^ル花^ハ
は^ハな^ナら^ラふ^フの^ノま^マは^ハ花^ハの^ノ雲^{クモ}の^ノま^マは^ハ
ゆ^ユく^クも^モま^マは^ハな^ナら^ラふ^フま^マは^ハ

吉野山人

七

大佛供養

第...

忘きと草ヨクけ名下は國下て下く下悪下り下

わら下り下成下ん下是下さ下平下家下け下侍下し

悪下七下者下は下景下清下り下我下け下向下の下西下國下乃

方下よ下ら下ひ下の下宿下於下け下子下細下あ下る下に下よ下り

此下宿下み下ら下り下清下み下よ下一下七下日下急下心下竜下戸下て

伊下呂下波下入下の下南下都下大下仏下供下養下村下由下戸下の

大佛供養

葉も若草色に母と二人抱ての宿子
 花は乃折常妻懸子紛身向教は
 め吹今南都へと志候 サレ あせれせ
 するり入ちびりも榮つ了花紅葉
 乃壽永れ秋のりまれば思もぬれ
 子さそりれてしがも詞み都れ空
 了久鄙れうよ信右 下あ 此まぬ船の

^{上あ} 心もあへら久れ家よまじれ
 り三三の森乃のを頼みづくも常
 本れもうへていましけぬる御も成
 神も教へるも 元 鳴よ目れ里つ
 きみきりく 元 志宿よ南都若草
 鳥へさ志つぬげあひりあへ御行
 海を尋たやと信候 母 梅色秋子れ

大正拾遺

景清の流はとらひてはるやうに南に
 や二重の流はとらひてはるやうに
 あらせてきり給へりて業はよ
 かつたきしとほふりてさへは麻子
 立てもく景清の流はとらひてはるやうに
 あらひてはるやうに景清の流は
 流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに

流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに
 流はとらひてはるやうに

こ思ふを^上一^下門の船はうら^下妙く^下肩
 をさへ^下入^下膝を^下く^下て^下可^下き^下く^下ま^下む^下月
 の^下景^下清^下る^下神^下る^下と^下て^下出^下毎^下よ^下あり^下と
 て^下かる^下ま^下ま^下類^下の^下口^下下^下武^下略^下版
 の^下ま^下り^下あ^下ら^下ま^下れ^下と^下名^下ぞ^下う^下り^下楫^下の^下舟
 の^下り^下と^下主^下後^下隔^下あ^下り^下り^下り^下の^下舟^下
 や^下ま^下ま^下じ^下たり^下と^下る^下の^下騏^下驎^下も^下た^下ぬ

ま^下り^下あ^下ら^下ま^下れ^下と^下名^下ぞ^下う^下り^下楫^下の^下舟
 夜のぬく^下依^下ほ^下と^下り^下御^下い^下か^下ま
 申^下依^下梅^下つて^下身^下を^下あ^下り^下く^下依^下志
 そ^下て^下書^下て^下あ^下り^下依^下る^下う^下つ^下た^下ま^下り^下経^下
 手^下母^下れ^下慈^下悲^下洋^下あ^下と^下染^下れ^下と^下急^下きた^下ら
 へ^下し^下た^下う^下り^下た^下森^下乃^下雨^下露^下の^下く^下
 ば^下し^下か^下し^下ぬ^下り^下我^下油^下を^下志^下ほ^下り^下ぬ

太神傳書

たるは海から^{ウツ}の^{クニ}行^{クニ}は親心の^{ハコ}むの^{ハコ}母に
 口を^{クハ}りり^{クハ}景清も^{クハ}此を^{クハ}を^{クハ}りする
 みる^ミことも^ミな^ミら^ミれ^ミり^ミく^ミ 一七五 ^セ ^一 ^七 ^五
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
^我
 武皇帝^{ブツミテイ}は^{シテ}御^ミ建^{ケン}た^タ大^{ダイ}仏^{ブツ}殿^{デン}に
 祈^{イノ}り^{コト}す^ル也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ

祈^{イノ}り^{コト}す^ル也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ
 大伽藍^{ダイカラン}は^ニ信養^{シユウ}寺^ジ也^ニ

大伽藍

六

とうらひ謀を。おまふらうのたを
 名乃悪七昔海京清と響のめき持
 きと人やまきと去る張海夜子ま為
 憎子きに執まら思ひたれ安よ今
 中 ち方らぬの何多降とて天下り
 才所ひる人守便まらう身は果
 又氣ある 宮人のまらうと志

持衣 ^{上境} くらり社務りい
 ころめそ 祓ためき 塵よまらう
 宮寺れ 信養の場よまらう
 行者まらう 御前まらう
 了ころらう人 ^{ニテ} きの春日の信は
 ろうきよ佛乃御信養場を清い
 役のちる行したるまらう

言^ハ白^ク奈^ニ子^ノあ^らん^どん^どん^と見^えん^どん^どん^どん^ど

信^ト長^シあ^らん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^ど

信^ト神^モ同^シ一^ノ躰^ニも^と上^ニも^と下^ニも^と一^ノ心^ニ

な^らん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^ど

と^も神^ト祇^ト禊^ト禊^ト君^トを^も守^りた^りた^り

戒^えん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^ど

う^らん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^ど

言^ハん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^ど

あ^らん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^ど

あ^らん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^ど

あ^らん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^ど

言^ハ語^道の^りた^りた^りた^りた^りた^りた^りた^りた^りた^りた^り

る^もそ^とな^りて^はい^へも^と卒^家の^侍

悪^七兵^衛景^清あ^らん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^どん^ど

と伊弉諾の神に祈る。禰園の園に
ト付対^ルせりやと侍候^上いふ屋
いふ禰園の兵衛のまをのみか
一はまはまのやうに^ル名
きよぶに高き以下^上知れ^ルか
こま^ルく^ルき^ルく^ル用^ルき^ルけ^ルん
まはまの^ル皆^ル一^ル同^ルり^ルた^ルら^ルさ^ルり^ル候

^三
其時

景清もまゝいへて思ふやう
宴立のまゝに弓矢の恥辱と成入
まがかりの^ル古^ル刀^ルの^ル打^ルあ^ルひ^ルく^ル重^ルの
て^ル対^ル候^ルを^ル侍^ル候^ルと^ル大^ル音^ルあ^ルき^ルく^ルよ
まはまのまゝに^ル作^ルは^ルま^ル平^ル家^ルの^ル侍^ル
悪^ル十^ル兵^ル衛^ル景^ル清^ルと^ル名^ル義^ルと^ルあ^ルへ^ルと
あ^ルま^ルを^ルま^ルま^ルと^ル援^ルけ^ルも^ル立^ル向^ルひ

忠信

^年是ハ判官殿の御内ミウチニ伊勢方の三島
 義盛ヨシモリあり。相と我君判官殿ハ此吉
 野と取トりて御殿ミドの前後シユトの金カネ議ギ替
 今イマ夜ヤ更ミ討ウチつるを御事ミコト一定イチテイのやう
 又申マカシ候マカシ向ムカシけり。申マカシ上ウヘも申マカシ下シモも申マカシと申マカシ候マカシ申マカシ候マカシ
 申マカシ上ウヘの義盛ヨシモリと申マカシ上ウヘの判官判官ハクワン方カタへ申マカシ候マカシ

忠信

甲

是て依判友 極道今ハ何の為よまのりく

甲

者そ といふ口今しまる子館の波お

あつて當山の者た心程ありー今夜

よろらと對ふ子一定の極よの同此

中中上へいさあふまのりて依判友 是くあ

戒めてるあ甲 といふ判友 口惜や我いく

くまの難城のうま命と重さともたう

毛テラウ 劫テライ の虚名キヨメイ とともこも為也ま

み當山の前後夜討も死と告さる

る案。是倫よ更る法加獲あり。まもよ

角み我ハ後よ入け可と異くへー難か

一人とまの防ぎ多と射。其存命とま

つふあーと路次めて追付判友 とい者やあ

義成判友 といひと判友 此談長て承ゆま

忠信

あつらふ事と始は皆何國迄もは信と社
ねとまれの事あつらふ程ありしる出の
きて直ふ所付らうやある判友と
こそ我ら思ふ所あるは六依者忠
信をけ方へとや久早忠てのいかに洲
至の内よ忠信は後らうレテ程ありて後
こそ早君よりこのはなふ義忠とて

ての事所用の事ゆはたまのあまこと
うはゆら判友忠て候早忠信とて
いふ忠信當出らう者たふ替へ今我
夜討しとてゆら一室入様申作。老よ
角ふ我ち我ふ入洲可とひくへ一母一
人苗り防ぎ久と討て後命致合ふ
て後次ありてゆら追討とレテ海談長て

011111

思行
豕の去たうら果うのち行國はし湯
俵よるをきくたしと船人の子付ら
神より一辭一申去あつた時止意
さうさうのち^{判文}申すおまへは
さうの事ある回りの法もよく
下おるをいさうさう入探まわら湯久
仕事して湯渡らうとての面目あ

神は天おろそくよ去あつた我君
を始しより皆人とお名残を惜ら
う^上あつた湯をみる御前を立
う^上おる我覺ゆる^上おつた時刻
物として我君我を^上おつた
門前を出ると^上おつた志
のひおける^上おつた志

奉言

尾形

日

中野戸 留事 じやまへて 命を全し
 て 清徳よ ましむ 不忠 然下 心
 よ 中野戸と ありき 然入 忠信
 の 唯 独り さま 心 の 便も 加へん
 く 古 野川 ありま しく 騒ぎ
 波 ありき 荒れ しく 騒ぎ
 坊平入 業門 申作 今 夜の 文入 坊

法師

ま ねよ 業門 ヤテ ひと いたる 成者ぞ
 こ かり あり 頼朝 より 乃 たり 又 降 じ け ぬ
 山 北 老 たり 判官 殿 には 遠 小 あり たり
 ち しく 出 させ 給 へ 荒れ しく
 一 や 赤も 我 君 小 思 じ け ぬ せ ごと 也
 ぞ 一 元 軍 の 心 入 ぬ 洪 丈 一 助 清 徳
 入 じ け ぬ ぞ 櫻 小 走 け け け け け

忠告

二

中アにアてアおアはアらアしアびアひアてアぬ
つアまアいアえアうアしアあアらアるア武ア者ア救ア多ア一ア
久ア小アさアうアやアこアうア入アのア目アとア驚アのア肝ア
とアきアしアてア一ア度アよアうアらアそアはアあアまアりア
きアかアとア振ア持アてアくアらアずア手アのア足ア
よりア右アのア足ア入ア文字アよア切アとアそアえア入ア
しアかア空ア腹ア切アくア樽アよりア後アのア谷アよアそア

らアろアひア落ア上アのア兵ア是アとアえアてアよアれアや
老アがア首ア級アとアきアやア一ア度アよアらアつアとアきアうアらア
破アりア破ア入アあアらアまアきアてア震ア動アすアまアらア
其ア際アよア忠ア信アのア心ア通アてア用ア意アのア小ア志アのア
追アまアひアそアふアあアらア出アてアくアらアかアらアずアらア分ア
いアくアらアまアきアみアのア外アをアあアやアしアむアるア者ア
考アてアあアらアいアうアあアとア呼アりアかアらアぬア地アよア

忠言

休隠まき言んば便ふ熱をむくは
 道と海ととてまきく拂ふまみ
 下るま向彼きて二山よあれは
 兵大夫刀あつてお太刀以精流一諸
 膝うまて切敷し通て今六四うよと遠
 つ谷城蝶鳥のこく小飛翔ててうき
 の如く小飛翔つておとつてそまきり

鷹帽子抄

末と東の松衣く日もくるく
 くしん 是ハ三條の吉次信さめ
 我け預敷う瘻と集め勇あし吉次
 とはし。只今東へ下るく吉次さ
 病かそ集めあし入るく
 細らゆ中てゆゆて流さるゆゆゆ

牛若

なましくあま成猿人奥(出下)作々
 馬供中の世々 ^{口キ} 安き向の世々
 今も清一安とんやき。師匠の手を
 翻弄し給ひきる人となるやして作程ふ
 思ひもよぬ事あり ^{牛若} 心我の父
 もあゝ母のね。師匠の勘當蒙り
 きられ ^和 咄付ひて行ぬ ^{口キ} 洲上の辞退

牛若

中ふぬびしてけいさげまゝ
 牛若 ^下 けいさげまゝとて今 ^入 白ぞ始てう
 き様 ^下 粟田口松坂や西の宮 ^下 河原
 逢坂の關路の約の流よ ^下 立ていけり
 高人の言後と成ぞ ^上 此 ^下 くらや乃
 麻の古 ^下 都 ^{ホガ} のお ^下 暮 ^下 う ^下 きの ^下 住 ^下 居 ^下 ば
 こそ ^下 今 ^下 思 ^下 ひ ^下 粟 ^下 持 ^下 の ^下 糸 ^下 を ^下 お ^下 ち ^下 へ ^下 て

雲霞のしほりしるしゆくはなつたけの長橋
 おはりの野路に夕ぞ降りて山の下はさし
 てお日の影もかすみくさすは月夜
 鏡の宿におきてまきりく夕 山 宿も鏡
 の宿よきては流しは川あゝあす
 みくし牛若 今もあすを能くかみくは我
 しがおのよみてはけはもてはけまきりく

そん髪を切るほしをき東男お牙
 をあらしめて下らやと思ひいふはけ肉
 仕事ゆかへ牛若 宿もてはりのぞき
 ほしの町警ふまはりは 何と多分
 しれ法おるとおもは中の子もは福も
 明日おきまきりてはけ牛若 宿も
 旅もは福も今も宿もてはけりく

の折で美しきまはるあての先け方
 入久相志^{牛若}の何番おろき
 の折よ折る^{レテ}給り久 是ハ折あて
 久^{牛若}まき^{牛若}家^{牛若}の時^{牛若}社^{牛若}今^{牛若}の^{牛若}家^{牛若}
 統^{牛若}の^{牛若}妻^{牛若}あ^{牛若}て^{牛若}折^{牛若}お^{牛若}ろ^{牛若}思^{牛若}ひ^{牛若}も^{牛若}あ^{牛若}
 也^{牛若}中^{牛若}あ^{牛若}て^{牛若} 信^{牛若}ハ^{牛若}志^{牛若}あ^{牛若}ま^{牛若}か^{牛若}思^{牛若}ひ^{牛若}子^{牛若}油^{牛若}
 の^{牛若}折^{牛若}只^{牛若}折^{牛若}て^{牛若}給^{牛若}り^{牛若}久^{牛若} 雅^{牛若}ら^{牛若}入^{牛若}の^{牛若}折^{牛若}

事^{牛若}あ^{牛若}て^{牛若}折^{牛若}お^{牛若}ろ^{牛若}美^{牛若}し^{牛若}き^{牛若}ま^{牛若}は^{牛若}る^{牛若}あ^{牛若}て^{牛若}の^{牛若}先^{牛若}け^{牛若}方^{牛若}
 入^{牛若}久^{牛若}相^{牛若}志^{牛若}の^{牛若}何^{牛若}番^{牛若}お^{牛若}ろ^{牛若}き^{牛若} 三^{牛若}妻^{牛若}
 の^{牛若}折^{牛若}よ^{牛若}折^{牛若}る^{牛若}給^{牛若}り^{牛若}久^{牛若} 是^{牛若}ハ^{牛若}折^{牛若}あ^{牛若}て^{牛若}
 久^{牛若}ま^{牛若}き^{牛若}家^{牛若}の^{牛若}時^{牛若}社^{牛若}今^{牛若}の^{牛若}家^{牛若}
 統^{牛若}の^{牛若}妻^{牛若}あ^{牛若}て^{牛若}折^{牛若}お^{牛若}ろ^{牛若}思^{牛若}ひ^{牛若}も^{牛若}あ^{牛若}
 也^{牛若}中^{牛若}あ^{牛若}て^{牛若} 信^{牛若}ハ^{牛若}志^{牛若}あ^{牛若}ま^{牛若}か^{牛若}思^{牛若}ひ^{牛若}子^{牛若}油^{牛若}
 の^{牛若}折^{牛若}只^{牛若}折^{牛若}て^{牛若}給^{牛若}り^{牛若}久^{牛若} 雅^{牛若}ら^{牛若}入^{牛若}の^{牛若}折^{牛若}

都よ清上洛あり。其る先祖ありては老ふ
びたおの志ほしと母きり社。君ふ清
出仕あり。時帝なるのめふ思ふまじき時
の清忠賞ふ。奥陸奥の國とほつては我
しき又もぬく。嘉例月出度志はすお
めてくは^{上カレ}冊志ほしと母きり社。君ふ清
2 出羽の國の守り。陸奥の國の守り

かあせほりん。法皇報ありては代ふ出あり
時祝言あり。あはれおと百れて目
出あり。出ありと母きり社。君ふ清
昔ありきり。志ほし。のた折あり。その
あり。源平とあ家忠。誓昌花あり。梅
と梅本四季あり。あま雲秋月雪の縁
行き。と。縁あり。あはれ。のま。保え

の其の存い平家一統の代と出ぬぞと
 一見すそれとても報自あふ母のり
 時多りおある多は様の花さうせはを
 侍候へ^{上レテ}多か様又候しつて福あく鳥帽子
 お立て^入多^ハあ^ハや^ハふ^ハ之^ハ色^ハ組^ハの^ハ志^ハ何^ハく^ハ多
 緒多し出^下多^ハま^ハさ^ハく^ハゆ^ハい^ハ海^ハへ^ハ百^ハま^ハして^ハ流^ハ
 流^ハく^ハと^ハて^ハ流^ハく^ハの^ハよ^ハふ^ハお^ハ直^ハち^ハの^ハ代^ハて

忍れ^ハバ^ハ天^ハ晴^ハ流^ハ美^ハ量^ハや^ハ是^ハぞ^ハ弓^ハ箭^ハの^ハ
 大^ハお^ハと^ハや^ハた^ハ不^ハ足^ハよ^ハも^ハ何^ハく^ハ一^ハ日^ハ奉^ハ一^ハ
 急^ハは^ハく^ハ無^ハ合^ハ中^ハて^ハの^ハ牛^ハ若^ハあ^ハく^ハ六^ハ州^ハ刀^ハと^ハま
 く^ハま^ハす^ハも^ハあ^ハく^ハく^ハ鳥^ハ帽^ハ子^ハの^ハ代^ハ
 一^ハ見^ハす^ハそ^ハれ^ハと^ハて^ハも^ハ報^ハ自^ハあ^ハふ^ハ母^ハの^ハり^ハ
 鳥^ハ帽^ハ子^ハの^ハ代^ハと^ハて^ハも^ハ報^ハ自^ハあ^ハふ^ハ母^ハの^ハり^ハ
 あ^ハく^ハと^ハま^ハあ^ハて^ハの^ハ者^ハの^ハ候^ハら^ハく^ハい^ハう^ハに^ハ候

五十四

作ツレか 何ツレゆめしそ 箱ツレき人の志は

し思はれおとと信の宿おれとまかせて
久はけ刀と給りて作あははし見ゆめ
代りめておるにう能くん久荒ふ思候也
か様ツレの事とて夫乃ちとあるゆとと思ひ
信ツレらくさあくと落候はゆゆめしそ
恥ツレもやゆむとよれはまの柴より先

たれきものハ候也 今ハ行とて信む
へき是名整るの内海めて果給ひ
鎌田兵衛正清乃女身なり。常給えら
よハ之男牛若子生まれさせ給ひ
がらの殿より此法腰の物と清守カ
あとして美しき給ひ。もはははな
くちてあめし也痛りや代り代り

てまゝに命さへぢうにせよとまゝに
おれぢうに命さへぢうにせよとまゝに
正清の女房イモコトと信かうツメなむ作シテ言
清道ひげ一年月うひまゝに親とも
今あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては

あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつてはあつては

牛若せん

忠我小情の深きとや ス 人きうあ
 きはゆきし 牛若 何き 鞍さるうゆ人牛若か
 君と見えもりていなり 牛若 今思ひ
 出 ツレ女 清うゆありの者う
 出目の程う 牛若 ころよ ツレ女 磯田う
 女弟小 牛若 あ ツレ女 のあ ツレ女 せん作
 入 牛若 六 牛若 理り 牛若 我 牛若 う 牛若 入 牛若 身 牛若 の 牛若 成 牛若 果

忠牛若ぬ 牛若 人 牛若 う 牛若 ひ 牛若 ち 牛若 な 牛若 り 牛若 今 牛若 う 牛若 牙 牛若 を
 治 牛若 ら 牛若 主 牛若 後 牛若 と 牛若 あ 牛若 ら 牛若 う 牛若 ら 牛若 う 牛若 魚 牛若 成 牛若 あ 牛若 ら
 夕 牛若 も 牛若 東 牛若 を 牛若 ち 牛若 明 牛若 行 牛若 の 牛若 ぐ 牛若 月 牛若 も 牛若 名 牛若 残
 の 牛若 影 牛若 う 牛若 つ 牛若 於 牛若 鏡 牛若 の 牛若 宿 牛若 を 牛若 立 牛若 出 牛若 於 牛若 浦 牛若 の
 一 牛若 忠 牛若 出 牛若 事 牛若 や 牛若 一 牛若 名 牛若 き 牛若 ら 牛若 出 牛若 牙 牛若 の 牛若 名
 人 牛若 と 牛若 伴 牛若 ひ 牛若 ち 牛若 猿 牛若 跡 牛若 志 牛若 う 牛若 海 牛若 の 牛若 四 牛若 ち 牛若 ち 牛若 一
 目 牛若 の 牛若 あ 牛若 ち 牛若 一 牛若 ら 牛若 ぬ 牛若 馬 牛若 の 牛若 情 牛若 時 牛若 代 牛若 小

かくる習とて。女悪ふ。女身とて。捨衣恨
 と更トシテお思トシテが。東路の清く。あむけ
 せ思トシテられ。久とて。上トシテ。洪トシテ。腰のぬれ。志あて
 事トシテき。上トシテ多トシテれ。か。あ。とて。清トシテ。五トシテ。我トシテ。あ
 毛トシテ。母トシテ。ふ。は。あ。は。思トシテ。ひ。知トシテ。る。さ。さ。ふ
 とて。高トシテ。人トシテ。と。伴トシテ。ひ。う。れ。様トシテ。よ。あ。は。ま。さ。え
 下トシテ。ま。る。養トシテ。徳トシテ。の。國トシテ。赤トシテ。坂トシテ。の。岩トシテ。ふ。悪トシテ。ふ。巻トシテ

可トシテく。急トシテ山トシテ。宿トシテふ。赤トシテ坂トシテ。の。者トシテふ。急トシテて。ふ。

ち。あ。ふ。吉トシテ。六トシテ。洪トシテ。前トシテ。よ。宿トシテ。と。ま。く。思トシテ。了トシテ。は。

是トシテ。の。行トシテ。と。仕トシテ。り。き。神トシテ。も。是トシテ。非トシテ。子トシテ。并トシテ

へ。行トシテ。面トシテ。の。行トシテ。み。を。信トシテ。ゆ。そ。

作トシテ。種トシテ。非トシテ。前トシテ。よ。泊トシテ。り。ふ。と。び。あ。る。り。の。思トシテ。と

う。た。あ。の。付トシテ。今トシテ。夜トシテ。ま。う。ち。ふ。討トシテ。ふ。ま。う。ら。う。

中トシテ。山トシテ。宿トシテ。ふ。左トシテ。振トシテ。の。淡トシテ。合トシテ。仕トシテ。は。縦トシテ。大トシテ。勢トシテ。方トシテ。者トシテ

とてを。表ふよとせ。兵と。五十騎斗

切のひかふら。あうらぬ。ゆかま。

是の頼に。しき事。と。たのむ。お。事。は。皆。き

の。ま。作。面。の。ま。具。して。持。強。裁。の

退。も。み。し。ら。る。と。夕。と。て

鞍馬山。う。く。年。月。多。兵。法。の。例。を

今。そ。の。お。衣。志。事。戸。を。開。け。と

興津白浪のあらしを。ほしと。持。括

き。り。く。あ。せ。う。も。て。お。白。浪。志

き。さ。く。雲。と。は。ら。つ。て。露。多。り。い。ふ

あ。者。た。海。前。み。ゆ。退。年。か。く。つ

と。開。き。る。内。の。風。と。早。じ。う。お

せ。依。内。の。内。ま。く。て。成。の。対。れ。又。き。た

も。の。負。ま。る。と。中。作。ふ。思。は。や。ま。う。ち

あま吉次兄弟あつていふまゝに
扱何者有^レ 扱東首の陸よりい
くは年ろ箱十二斗成箱三者小太
刀よ切く白りいりあつて蝶島の
如くあつて作^レ 扱摺針太島兄弟
を^レ 是ハあつりの親方とて一番
ふ切て入るを例へ小男後合兄弟あ

者のほそ首と雀一おふお落した
よ一作^レ あつて何とく彼者兄弟
あ余の志五十騎百騎あ増す
のさあ^レ切り切りあつた曲者よ
い^レ 殿の曲あつて今後ようちあ
一あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

御前

二

めぬ臆病者。扱東首の占シテきいめふふシテの
東首の切シテみ落シテ。二の東首シテきいめふ。
三をシテきて投シテゆシテてゆシテ。二の東首シテきいめふ。
て作シテ。まシテくそシテ大シテゆシテよ。支東首シテきいめふ。
とシテのシテもシテ。一のきシテいシテまシテの軍神。二の東首
の時シテの運シテ。二の我シテまシテ命シテあシテふシテ。二の東首シテきいめふ。
清シテなシテふシテ。今夜の表シテ対シテの扱シテよシテ。 内シテ渡シテ

の如く洗シテ候シテ。二の鬼神シテあシテもシテ。二の東首シテきいめふ。
敷シテのシテ。二の東首シテきいめふ。
のらシテのシテ。二の東首シテきいめふ。
あシテのシテ。二の東首シテきいめふ。
討シテのシテ。二の東首シテきいめふ。
責シテ入シテのシテ。二の東首シテきいめふ。
何シテとシテ。二の東首シテきいめふ。

の種よくよく...
 みるみる...
 お入か...
 もきく...
 北...
 今...
 捨...
 け...

有...
 様...
 び...
 じ...
 へ...
 う...
 が...

是童^ニの^ニ及^ニより^ニ火^ニを^ニ出^ニして^ニ志^ニの^ニ死^ニを
 割^ニて^ニ戦^ニひ^ニか^ニ秘^ニ術^ニ城^ニを^ニ過^ニる^ニ大^ニ太^ニ刀^ニも^ニは
 曹^ニ司^ニの^ニ小^ニ太^ニ刀^ニ小^ニ切^ニ立^ニれ^ニ清^ニ太^ニ刀^ニ小^ニ切^ニて^ニ
 刃^ニの^ニ入り^ニき^ニれ^ニ ^上お^ニお^ニの^ニい^ニあ^ニて^ニす^ニま^ニり
 づ^ニ組^ニて^ニ力^ニの^ニ勝^ニ負^ニ甘^ニ受^ニと^ニて^ニ太^ニ刀^ニ投^ニ
 捨^ニく^ニ大^ニの^ニ城^ニ度^ニを^ニて^ニ死^ニて^ニく^ニれ^ニを^ニ背^ニて
 り^ニろ^ニひ^ニの^ニ羅^ニ結^ニハ^ニ切^ニま^ニり^ニあ^ニり^ニと^ニま^ニり

ひ^ニろ^ニう^ニ起^ニよ^ニん^ニと^ニて^ニほ^ニつ^ニ立^ニお^ニと^ニ志^ニ向^ニ
 よ^ニり^ニき^ニつ^ニり^ニつ^ニき^ニ行^ニて^ニ獨^ニり^ニと^ニえ^ニり^ニ
 能^ニ坂^ニ志^ニ長^ニ花^ニを^ニ悔^ニふ^ニの^ニ小^ニ切^ニく^ニそ^ニう^ニせ
 又^ニも^ニれ

大親程

是ハ唐士モロコシヲ慕キアザシシテ其ノ操廉フモトムコト

云ヒトシモ民也。我親ワシマ孝カ者ムコト

次弟フタニキ富貴フツキノ家トシテ其ノ徳イサヲ

又進イデズルコトシもイ志シスコトハア教オシ育カム

身ミヲカ集ヒムコト酒サカベ或チ買カヒテ其ノ金カネヲコ用ヒクコトモマナ

シテ其ノ徳トクヲコ修シムコトトシテ其ノ身ミヲシラシムコト

大親程

思ひ作シテモイワズ 漢海のぞさくらをみるぬ
浪間よりこゑ 顔ま出る日ウキ 今コノ

の市入イテの行ビトとてささくまり終ハそ
妹シテもあつと内ウチみ入イレの酒サケ
愛アヒまりマリ 琴詩酒コトとみさる
てぬ友入トモあつとつツさかぬ酒切サカ
ささふ酒サケ愛アヒささる人ヒト

心ココロよヨく入イレくク思オモハねネふフをヲ盡ツク詩シ成ニ
はハくクもモあアつツとト酒サケのノさサさサるル
さサのノあアつツとトさサるル市シチ入イリのノ我ワ
とトあアつツとトけケねネつツのノ人ヒトとトあアわ
まマをヲ今イマもモ今イマのノあアつツとトあアつツのノあアつツ
まマせセ今イマのノあアつツとトあアつツのノあアつツはハ傳ツク
陽ヨウ志シのノあアつツとトあアつツのノあアつツ者モノ

あまのほろ親ふ孝有ふよりの天を
 あまのほろ深きわたるの雲霞の
 色にあの疑ひおほふさうらふと
 昔
 ちよとるいもほまわつてくも
 したたけしむるくはるあまの
 ぬりう面もあへくまはつて市入
 したたけしむるくはるあまの
 きたらぬまはつてくはるあまの

あまのほろ親ふ孝有ふよりの天を
 あまのほろ深きわたるの雲霞の
 色にあの疑ひおほふさうらふと
 昔
 ちよとるいもほまわつてくも
 したたけしむるくはるあまの
 ぬりう面もあへくまはつて市入
 したたけしむるくはるあまの
 きたらぬまはつてくはるあまの

のたもとほりほりもももももも
人又得てハ顯き出さく後う
さふ妙成を来さあきとほる
さして陽の口うけもきく
きたり比秋の夜月面白く
えきいのみもるまうりて救
得し大難ふりり白泉の口うらやそ

えいがかんあうり浦もきく
ともくほりまぬ泉行まもも
あまもももももももももも
て盡ぬは泉ほりまぬ音ふ
あまもももももももももも
命長えつひ抄の酒道俗男女

小...
 君...
 学...

右之本者觀世太夫織部
 以章句真本今亦新令改
 版者也

寬政十一巳未歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二條通御幸町西八町

山本長兵衛



